

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年2月号)

& アジア・新興国FXフラッシュ

2021/02/01

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見直し

※各マーケットコメントは1月29日(金) 9:00現在
※休日の実績は前営業日

		1月28日現在 (矢印は12月末比)	2月の予想	
USD	ドル・円 (円)	↗ 104.24	⇒ 103.00 ~ 106.00	
	先行き上昇を見込むが、本格的な動きは先で目先はレンジ推移			
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	↘ 1.212	⇒ 1.19 ~ 1.23	
	ユーロ・円 (円)	⇒ 126.35	⇒ 123.50 ~ 128.00	
コロナピークアウトの兆しがある一方、ワクチン接種の遅れを懸念				
GBP	ポンド・ドル (ドル)	↗ 1.372	↘ 1.32 ~ 1.39	
	ポンド・円 (円)	↗ 143.04	↘ 135.00 ~ 144.00	
コロナ変異種によるロックダウンの長期化で上値重い				
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	↗ 80.04	⇒ 77.00 ~ 81.00	
	NZドル・円 (円)	↗ 74.77	⇒ 72.00 ~ 77.00	
グローバルな景気回復期待継続から底堅いも、ドル安一服に注意				
株式 相場	日経平均 (円)	↗ 28,197	⇒ 26,000 ~ 29,500	
	景気回復期待から引き続き底堅いが、過熱感に注意			
NYダウ (ドル)	⇒ 30,603	⇒ 28,500 ~ 31,000		
	新政権期待継続しやすいが、投機的な動きからの不安定化に注意			
長期 金利	日本 (%)	↗ 0.040	⇒ 0.00 ~ 0.08	
	日銀政策点検への思惑広がるが、10年金利の一方向上昇は想定せず			
米国 (%)	↗ 1.045	⇒ 0.90 ~ 1.20		
	追加財政協議難航も最終的には成立するとの期待から底堅い			

◆ 今月の注目ポイント

バイデン大統領の政権運営が注目される

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気 動向	◎	【コロナ変異種】 感染力の高いコロナの変異種流行が引き続き懸念材料。各国での行動制限が長引くと、景気により下振れ圧力がかかる。
		【米国経済対策】 バイデン大統領が提案している1.9兆ドルの追加財政案を巡る協議の行方に注目。
金融 政策	○	【バブル懸念】 今月は日米欧での会合はないが、足元で投機的な動きも強まりつつある中で、各国中銀幹部の発言には注目が集まる。
政治	◎	【米国政治動向】 バイデン新政権のもと、2022財政年度予算教書の提出及び施政方針演説が予定されている。また、経済対策第2弾として、インフラ投資や気候変動対策が盛り込んだ、より広範で長期的な経済回復プランを発表予定。就任後100日間は「ハネムーン期間」とも呼ばれ、高い支持率から政策を進めやすいと言われるが、民主党内でも慎重な意見がみられる中で、どこまでまとめあげられるか、その手腕が注目される。

◆ 新興国通貨見直し

人民元・円	⇒ 15.9 ~ 16.4	レアル・円	⇒ 18.0 ~ 21.0
バーツ・円	⇒ 3.40 ~ 3.55	メキシコペソ・円	↘ 4.90 ~ 5.50
ルピア・円	↗ 0.71 ~ 0.76	ルーブル・円	↘ 1.32 ~ 1.43
ルピー・円	↗ 1.40 ~ 1.45		

◆ 今月の重要日程

1日(月) 米	1月ISM製造業	15日(月) 日	20/4Q GDP1次速報
3日(水) 米	1月ISM非製造業	17日(水) 米	1月小売売上高
4日(木) 英	BOE金融政策委員会	17日(水) 米	FOMC議事録(1/26、27)
5日(金) 米	1月雇用統計	19日(金) 日	1月CPI
10日(水) 米	1月CPI	19日(金) 欧	2月PMI
11日(木) 中	春節休暇(~2/17)	24日(水) 米	2月消費者信頼感指数

◎注意事項

本資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、本資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

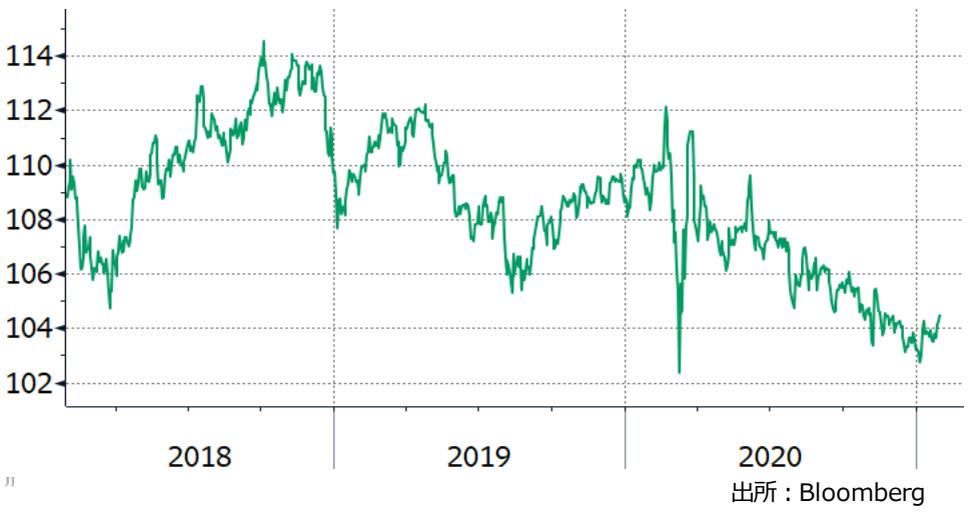
◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年2月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

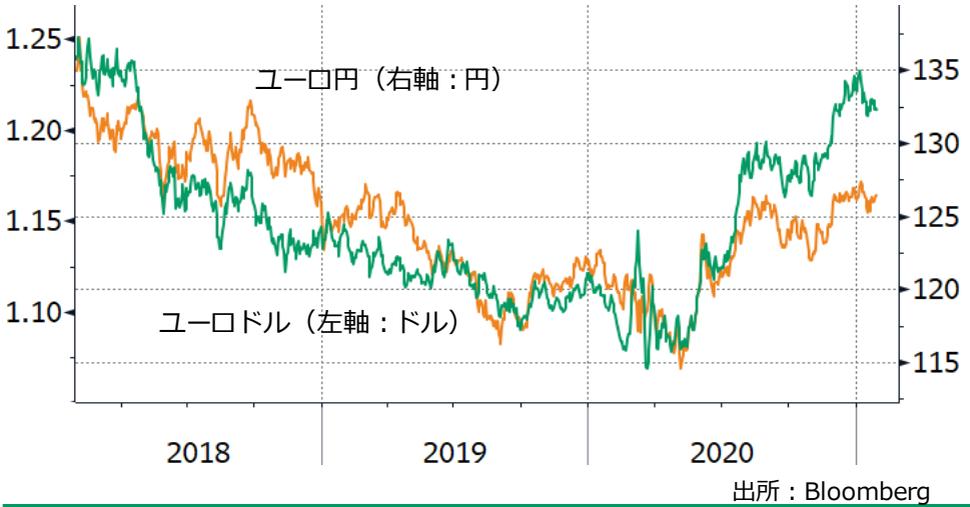
ドル 円



米ドル円 ⇒ ドル円は横ばい 103.00 - 106.00円

ドル円は先行き上昇を見込んでいるものの当面はレンジ範囲内の動きとみる
 足元のドル円相場はボラティリティに乏しい動きが続いているが、1月は①米上院決選投票を民主党が制してのトリプルブルー実現、②月末にかけての米国株市場でのVIX指数上昇に伴うリスク回避をきっかけとしたドル高に乗じて104円台へとレンジを切り上げた。投機筋のドル売りポジションへの傾きが大きかった中で、ドルは買戻しの動きが優勢となった。
 今後のドル円相場は経済要因、金融政策要因等でのドル買い戻し圧力が徐々に強まるとみるが、本格的な動きはまだ先とみている。世界的に新型コロナ感染再拡大の動きが続く中で、日米欧は気温が低く、感染拡大しやすい気候が続く。ワクチン接種が進展すれば局面打開のきっかけとなるが、足元で米国でのワクチン接種進捗ペースは鈍い。本格的な経済回復は春先以降で、金融政策面でもFRBのハト派姿勢に変化はないだろう。2月の相場展開はポジション調整の動きに留まり、引き続きレンジ内の動きが継続と見込む。

ユ ー ロ



ユーロドル ⇒ ユーロドルは横ばい 1.19 - 1.23ドル
 ユーロ円 ⇒ ユーロ円は横ばい 123.50 - 128.00円

ユーロドル、ユーロ円はともに横ばいを予想
 1月はユーロドル、ユーロ円ともに1月5日の米国ジョージア州の上院決選投票において民主党が2議席を獲得し、トリプルブルーとなったことで、ドル安の巻き戻しが進み、対ドルで上昇していたユーロが売られた。また、ドイツでのロックダウンが延長・強化されたことも嫌気された。1月のECBでは、市場予想通り政策の変更等は行われず、目新しい材料がなかったことから為替への影響は限定的であった。
 2月のユーロは横ばい圏で推移するとみる。欧州でのコロナ感染拡大はピークアウト傾向がみられ、各国のロックダウンも緩やかに解除されるであろう。一方、コロナワクチンの接種は米国や英国に比べやや遅れも見られ下押し圧力となろう。足元では為替への影響は限定的であるが、イタリアのコンテ首相辞任に伴う政局の混乱などには注意が必要とみる。

◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

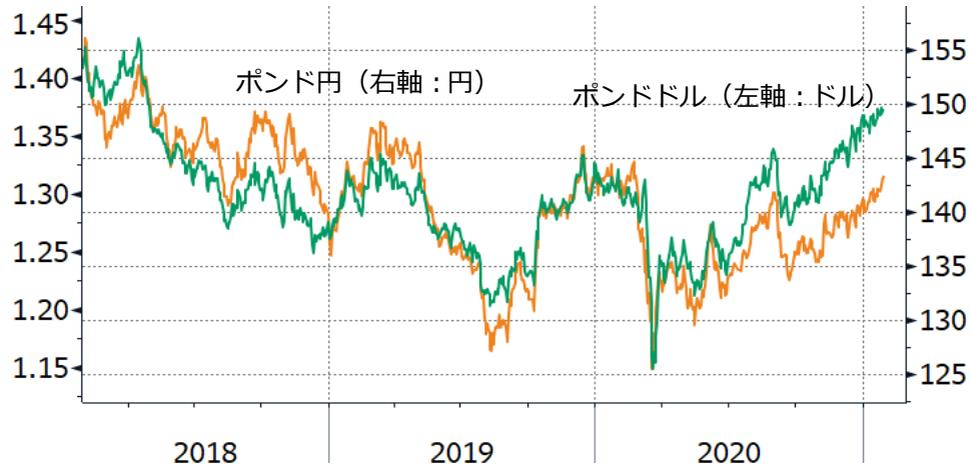
◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年2月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポンド



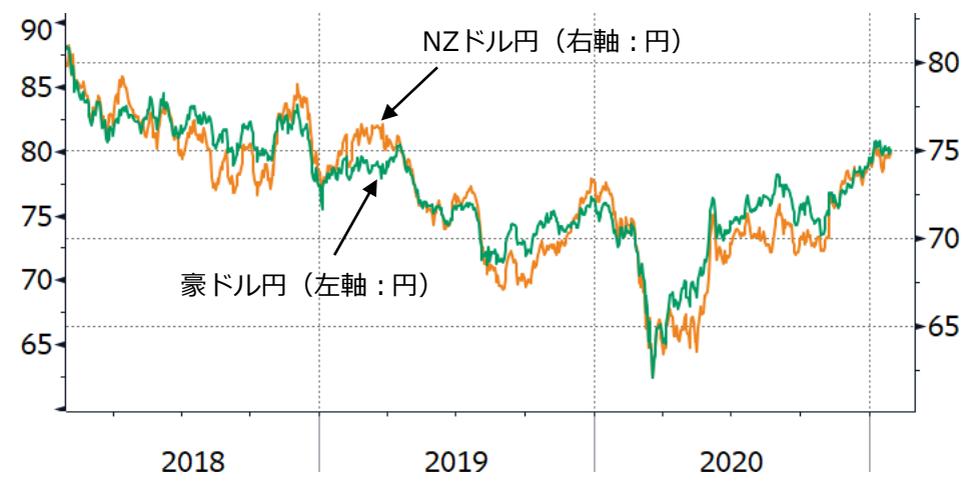
出所：Bloomberg

ポンドドル	ポンドドルは下落	1.32 - 1.39ドル
ポンド円	ポンド円は下落	135.00 - 144.00円

ポンドドル、ポンド円はともに下落を予想

1月のポンドは、12月末にEU離脱を巡る通商協議が合意したことへの安心感や主要国に比べコロナワクチンの接種が進んでいること、コロナ感染者数にピークアウトの兆しがみられることなどから他通貨に比べ堅調に推移した。
2月のポンドは下落を予想。英国はすでに3度目のロックダウンを実施しており、一部閣僚からは夏まで延長する可能性も指摘されている。1月の景況感はずでに落ち込んでいるが、長期にわたり厳しいロックダウンが継続される可能性も高くポンドの下押し圧力となろう。また、景気悪化によるマイナス金利導入への期待が高まればポンド下落要因となる。

豪ドル・NZドル



出所：Bloomberg

豪ドル円	豪ドル円は横ばい	77.00 - 81.00円
NZドル円	NZドル円は横ばい	72.00 - 77.00円

豪ドル円、NZドル円は横ばいを予想

1月のオセアニア通貨は米国のトリプルブルーの実現を受けた米金利の上昇やそれに伴うドル安地合いの不服感などから上値重く、もみ合い推移となった。両通貨ともコロナショック後の最高値を更新後、引き続きもみ合う展開となっている。
2月のオセアニア通貨は横ばい推移を予想。高値圏にあるものの、両国のコロナ感染状況は欧米諸国に比べ抑えられており、経済も順調に回復している。引き続き、グローバルな景気回復期待から底堅い動きとなろう。かかる中、2日に開催予定のRBA理事会では、4月末に期限を迎える量的緩和プログラム延長について、減額も含めた何らかの示唆があるかに注目。またNZでは住宅バブルへの懸念から先行きの利下げ見通しには慎重になると見られ、NZドルを下支えしよう。一方、米国で協議中の追加経済対策が相応な規模で決定されれば、米景気回復期待からドルが底堅くなる可能性もあり、その場合は両通貨の上値を抑えられよう。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年2月号)

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株式見通し



日経平均 ⇒ 日経平均は横ばい 26,000 - 29,500円

日本株は横ばいを予想

1月は米国でのトリプルブルー実現を受け、景気回復期待から景気敏感株の多い日本株は底堅い値動きとなった。車載向け半導体のひっ迫等の報道も、半導体関連株の上昇に寄与したが、月末にかけては利益確定売りに押された。2月の株価は、引き続き景気回復期待に伴うリスク選好の流れから底堅い推移を予想する。一方で投機的な過熱感を懸念する向きも増えており、市場が不安定化するリスクには注意が必要と見る。

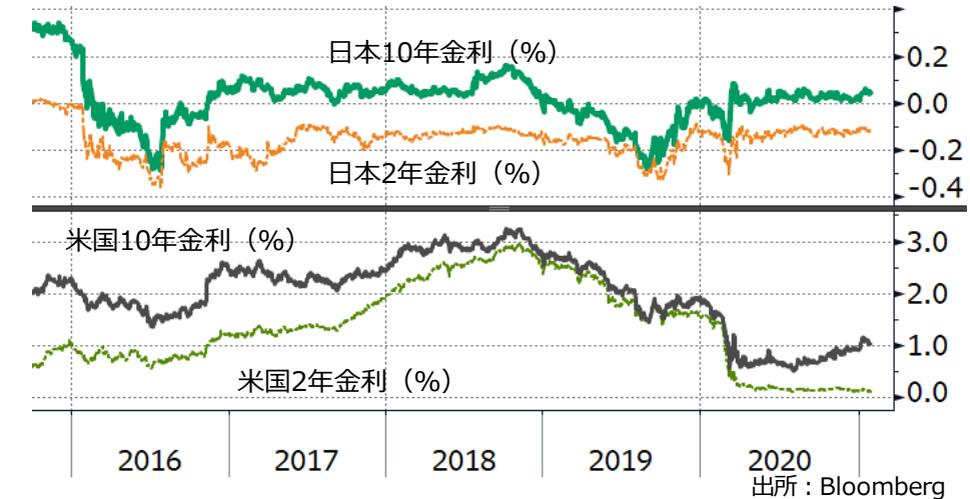
NYダウ ⇒ ダウは横ばい 28,500 - 31,000ドル

米国株は横ばいを予想

1月は予想外のトリプルブルー（大統領、上下院民主）実現で史上最高値を更新したが、月末にはヘッジファンドや個人投資家の投機的な動きから株価が不安定化する局面もみられた。バイデン大統領の政策への期待から引き続き株価は底堅い展開を予想するが、足元一部で投機的な動きが強まってきており、市場の不安定化が投資家のセンチメントを冷やす可能性には注意。

出所：Bloomberg

長期金利見通し



日本国債10年 ⇒ 金利は横ばい 0.00 - 0.08%

日本国債は金利横ばいを予想。

日銀が3月会合で公表する予定の政策点検結果に向けた思惑により相場は振れやすい。長期金利操作の柔軟化、国債買い入れの実質的な減少が意識されれば金利上昇要因となりうるが、コロナ禍の影響が残る中で10年金利の一方の上昇につながる政策は取りづらいとみている。米金利も目先大きく上昇する展開は見込まず、引き続き10年金利はもみ合い継続とみる。

米国債10年 ⇒ 金利は横ばい 0.90 - 1.20%

米国債は金利横ばいを予想。

1月はトリプルブルー実現による財政拡張観測から一時金利上昇も、期待剥落や月末の株安に連れて巻き戻された。2月は追加経済対策の議論がスタートするとみるが、規模や内容面で共和党との協議は難航するとみる。一方、最終的には成立するとの期待も根強く、金利は1%を中心にレンジ内での推移となろう。

出所：Bloomberg

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年2月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

		1/28		2月の予想	1月のレビュー	2月の見通し
中国	人民元/円	16.17	⇒	15.9~16.4	年明けの人民元相場は大きく上昇して始まり、ドル人民元は一時6.4台前半をつける場面もみられた。しかしながら5日の米上院補選で民主党が多数派をとったことを受けドルに買い戻しが入り、ドル人民元は6.4台後半。その後は底堅い推移が続いた。対円でも小幅に元高水準で1元16円台へとレンジを切りあげた。	足元では堅調な経済環境・バイデン政権発足による米中関係の更なる悪化回避への期待等がサポートし人民元は底堅く推移しよう。河北省等一部で新型コロナによる封鎖が懸念されるが、現状では全土的な動きではなく影響は大きくないとみる。一方で昨年とは違いドルも底堅く推移し、対ドル相場の下値は限定的とみる。対円では16円台で値固めする展開を見込む。
	ドル/人民元	6.45	⇒	6.35~6.55		
タイ	バーツ/円	3.48	⇒	3.40~3.55	ドルバーツは30バーツを挟んでのもみ合いの展開が続いた。ドル安の勢いが一服する中で、国内での新型コロナ感染者増加への警戒や、インバウンド枯渇による経常収支の悪化等の要因もあり、29バーツ台でのバーツ高進行は限られた。一方、対円ではリスク選好の円安傾向でバーツ円は3.4台後半にレンジを切り上げた。	タイ国内では新型コロナウイルスの感染者増加傾向の中で非常事態宣言が継続、旅行需要の停滞によるサービス収支の押下げは当面続く。一方で、世界的に製造業が好調となる中で12月輸出が予想外に増加したことは外需依存度のタイ経済にとっては好材料だろう。タイバーツは1ドル30バーツ近辺でのもみ合い相場が続くと予想している。
	ドル/バーツ	30.04	⇒	29.7~30.8		
インドネシア	ルピア/円	0.741	⇒	0.71~0.76	1月のインドネシアルピアは年始に大きく上昇してスタートしたものの、米国のトリプルブルー実現に伴うドル安一服から下落。その後は下げ幅を縮小し、もみ合う展開となった。21日の金融政策決定会合では、金利は据え置かれた。対円ではほぼ横ばい推移となった。	堅調な中国経済を背景に、中国との関係の深いインドネシアルピアは引き続き底堅いと予想。一方、インドネシア中銀は直近の金融政策決定会合で金利を据え置いたものの、同国の新型コロナの感染状況は深刻であり、為替動向次第では利下げの可能性も残る。また米国での大規模な財政成立でドル高となれば、ルピアの上値は抑えられよう。
	ドル/ルピア	14,078	⇒	13,800~14,200		
インド	ルピー/円	1.43	⇒	1.40~1.45	1月のインドルピーは米国トリプルブルー実現に伴うドル安の一服を背景に上値の重い場面もあったが、その後反発、月後半には株価が連日の下落となったにも関わらず、昨年9月以来の高値を付ける場面もあった。IMFは同国の2021年成長率見通しを11.5%とした。対円では月前半に下落後、ほぼ一貫して上昇。	足元落ち着きもみられるが、引き続きインフレ圧力は強く、インド中銀は利下げに踏み込みづらい状況。また国内では新型コロナの感染拡大も一服し、景気回復基調が鮮明であり、ルピーの底堅い動きは継続しやすいとみる。一方、インド中銀は引き続きルピー高回避のための介入を行う可能性があることや、米国での大規模な財政成立でドル高となれば、ルピーの上値は抑えられよう。
	ドル/ルピー	73.04	⇒	72.0~73.5		

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年2月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し⑤ 新興国通貨 (中南米・ロシア)

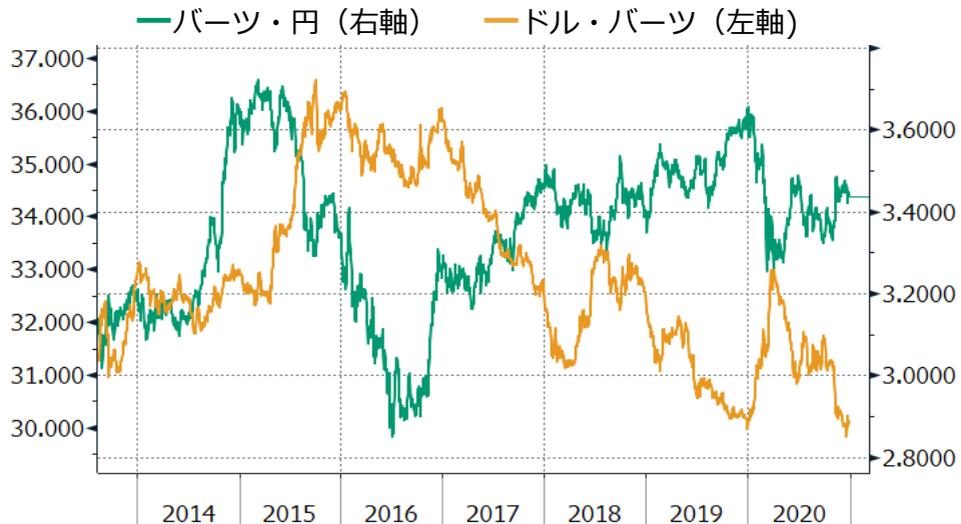
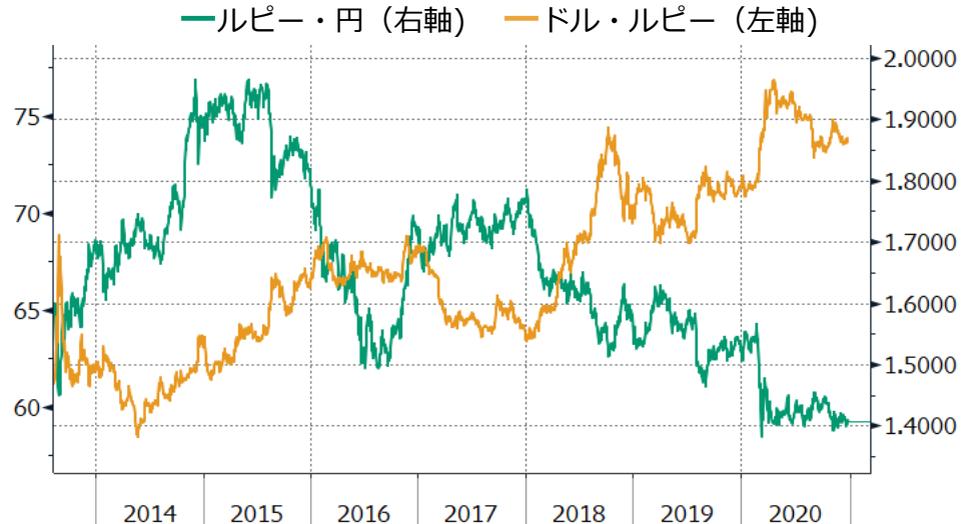
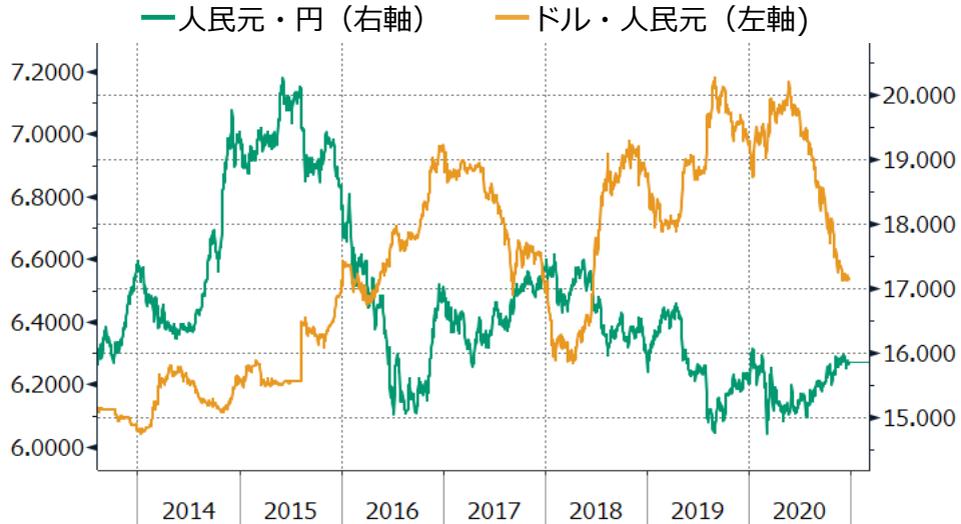
		1/28		2月の予想	1月のレビュー	2月の見通し
ブラジル	レアル/円	19.16	➡	18.0~21.0	1月のブラジルレアルは、対ドル、対円ともにやや軟調に推移。堅調に推移していた鉄鉱石価格の上値が足元で重くなったことや、国内のコロナ感染者数が高止まりしていることなどが要因。ドル安の巻き戻しの動きなども重荷となっている。	ブラジルレアルは横ばい圏を予想。中国の経済回復や鉄鉱石を中心に資源価格の堅調な推移がレアルを後押しするとみるが、国内の新型コロナの感染者数は高止まりしており、ワクチンの接種率も現時点では低い水準にとどまっていることから上値は重いであろう。
	ドル/レアル	5.44	➡	5.00~5.80		
メキシコ	ペソ/円	5.15	⬇	4.90~5.50	1月のメキシコペソは、横ばい圏で推移。ドル安の巻き戻しの動きや国内での感染者数の増加などがペソの重荷となったが、米国でバイデン大統領が正式就任し大規模な経済対策を打ち出したことで、米国との関係が深いメキシコ経済に恩恵があると意識され底堅く推移した。	メキシコペソは下落を予想。足元の消費者物価は2カ月連続で低下し、中銀の目標上限から下振れしており、中銀に緩和余地を与えている。加えて、米国の追加経済対策について、協議が難航する可能性が高く、成立への期待が剥落する場合はメキシコペソの押し下げ要因となる。
	ドル/ペソ	20.25	➡	19.0~21.5		
ロシア	ルーブル/円	1.37	⬇	1.32~1.43	1月のロシアルーブルは、対ドル、対円ともにやや軟調に推移。原油価格が堅調に推移したことがルーブルの追い風となっていたが、10月の反体制派毒殺疑惑を巡り、米国や欧州議会がロシアとドイツ間のガスパイプライン建設に対して制裁をかけたことなどが重荷となった。	ロシアルーブルは引き続き軟調に推移すると予想。欧米とロシアの関係に改善する兆しが見えず、引き続きルーブルの重しとなるとみる。バイデン新大統領の対ロシアへの姿勢については注目される。また、原油価格も足元で上昇一服の兆しが見られており、今後下落に転じればルーブルの押し下げ要因となろう。
	ドル/ルーブル	75.96	➡	72.0~80.0		

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年2月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 新興国通貨チャート



◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

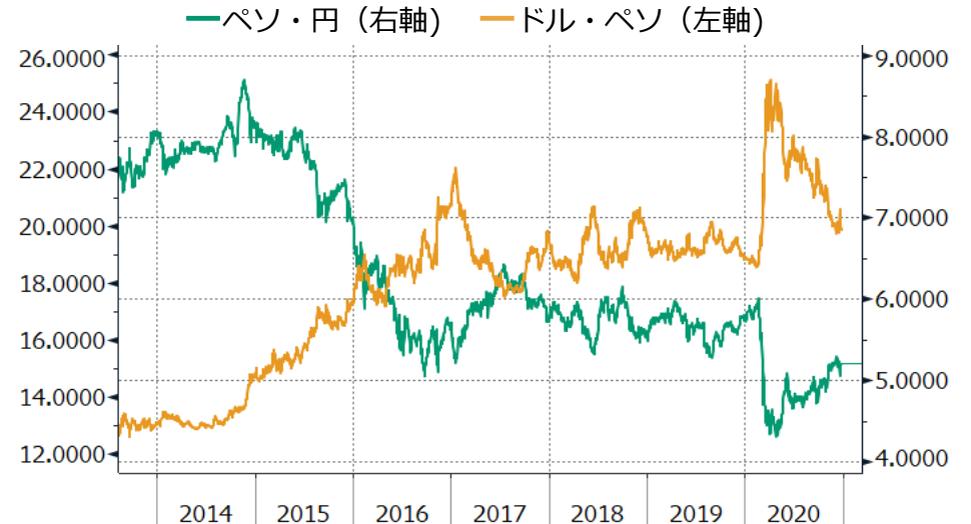
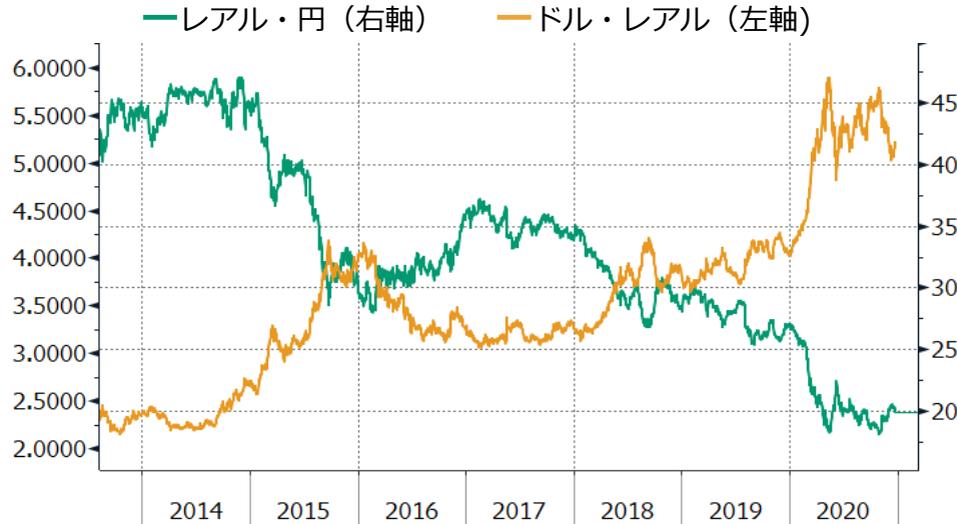
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年2月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 新興国通貨チャート



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年2月号)

& アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 年間為替見通し

		2021年				ポイント
		2~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
ドル円	レンジ	102~107	103~109	105~111	106~112	コロナ禍からの回復を米経済が牽引、年後半にかけては米長期金利が上昇しドル円は110円を目指す動き。
	期末値	105	108	108	110	
ユーロドル	レンジ	1.12~1.23	1.12~1.20	1.11~1.19	1.10~1.18	欧州復興基金設立をきっかけとしたユーロへの期待はあるものの、ドル安の一服や各国の選挙などへの警戒感は強く上値は重い。
	期末値	1.19	1.16	1.15	1.14	
ユーロ円	レンジ	120~130	119~129	119~130	119~130	EUとの通商協議合意における合意対象外の金融などのサービスで混乱が起こる可能性に注意。国内のコロナ変異種の拡大によるロックダウンの長期により上値は重い。
	期末値	125	124	124.5	124.5	
ポンドドル	レンジ	1.27~1.39	1.22~1.35	1.20~1.32	1.18~1.30	EUとの通商協議合意における合意対象外の金融などのサービスで混乱が起こる可能性に注意。国内のコロナ変異種の拡大によるロックダウンの長期により上値は重い。
	期末値	1.33	1.28	1.26	1.24	
ポンド円	レンジ	134~144	128~140	128~140	128~140	EUとの通商協議合意における合意対象外の金融などのサービスで混乱が起こる可能性に注意。国内のコロナ変異種の拡大によるロックダウンの長期により上値は重い。
	期末値	139	137	136	136	
ドル人民元	レンジ	6.40~6.80	6.40~6.80	6.40~6.80	6.60~6.90	堅調な中国経済が人民元を押し上げるが、年後半はグローバル経済の回復で人民元の優位性が薄らぐ。
	期末値	6.50	6.50	6.60	6.70	
人民元円	レンジ	15.7~16.5	15.6~17.0	15.6~17.0	15.5~16.9	堅調な中国経済が人民元を押し上げるが、年後半はグローバル経済の回復で人民元の優位性が薄らぐ。
	期末値	16.2	16.6	16.4	16.4	
豪ドル円	レンジ	75.0~81.0	78.0~82.0	80.0~84.0	80.0~84.0	グローバルな景気回復期待から底堅い動きが継続。中国との貿易摩擦の先鋭化には注意。
	期末値	78.0	80.0	82.0	82.0	
タイバーツ円	レンジ	3.35~3.70	3.30~3.65	3.30~3.70	3.40~3.75	安定した経常黒字がバーツ高の支え。タイ中銀はバーツ高嫌うも追加緩和余地乏しい。
	期末値	3.50	3.50	3.50	3.55	

◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年2月号)

& アジア・新興国FXフラッシュ

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他		日本	米国	その他
2/1(月)		12月建設支出 1月ISM製造業景況感指数		2/16(火)	12月第3次産業活動指数 5年利付国債	12月対米証券投資 2月NY連銀製造業景況感指数	(EU) 10-12月期四半期GDP (独) 2月ZEW景気期待指数
2/2(火)	10年債入札 1月マネタリーベース		(豪) 準備銀行理事会	2/17(水)	12月機械受注 1月貿易統計	12月企業在庫 1月鉱工業生産 1月小売売上高	
2/3(水)		1月ADP民間雇用調査		2/18(木)	20年利付国債 国庫短期証券(1年)	1月住宅着工 1月輸入物価指数 2月フィラデルフィア連銀製造業景況感指数	
2/4(木)	30年債入札		(EU) 12月小売売上高 (英) BOE金融政策委員会	2/19(金)	1月CPI 国庫短期証券(3か月)	1月中古住宅販売件数	(EU) 2月ユーロ圏PMI
2/5(金)	12月景気動向指数 国庫短期証券(3ヶ月)	12月消費者信用残高 12月貿易収支 1月雇用統計		2/22(月)		1月シカゴ連銀全米活動指数 1月景気先行指数	(独) 2月IFO景況感指数
2/8(月)	10年物価連動国債 12月国際収支 1月景気ウォッチャー調査 1月貸出・預金動向			2/23(火)	(天皇誕生日)	12月S&P/ドジャークCS住宅価格指数 2月リッチモンド連銀製造業景況感指数	
2/9(火)	12月毎月勤労統計 1月マネーストック 国庫短期証券(6か月)			2/24(水)	国庫短期証券(6か月) 流動性供給入札(残存期間5年超15.5年以下)	1月新築住宅販売	(NZ) 準備銀行理事会
2/10(水)	流動性供給入札(残存期間15.5年超39年未満)	1月CPI 1月財政収支	(中) 1月CPI	2/25(木)		10-12月期GDP改定値 1月中古住宅販売成約指数	
2/11(木)	(建国記念の日)			2/26(金)	1月鉱工業生産 1月住宅着工件数 2年利付国債 国庫短期証券(3か月)	1月個人所得・消費支出	
2/12(金)	国庫短期証券(3か月)		(EU) 12月鉱工業生産	2/27(土)			G20財務相・中央銀行総裁会合 (ビデオカンファレンス)
2/15(月)	10-12月期GDP1次速報値 12月稼働率	(ワシントン誕生日(大統領記念日))		2/28(日)			(中) 2月PMI製造業



◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年2月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

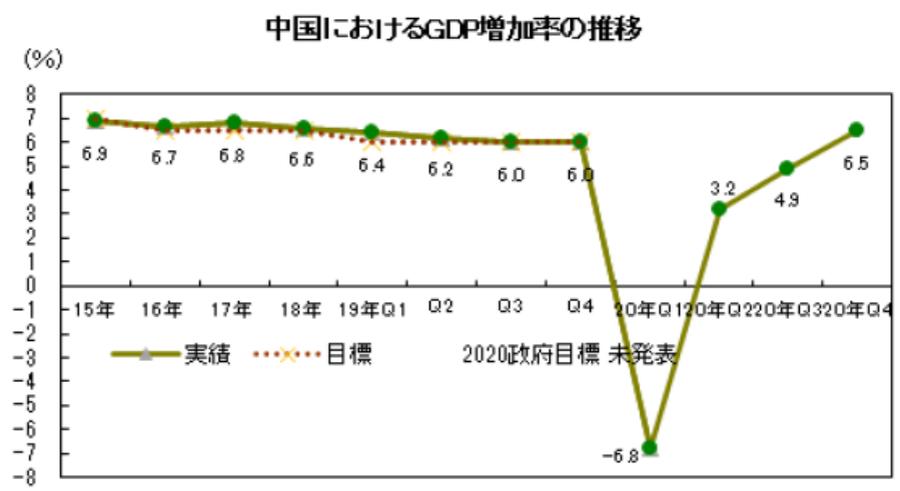
中国の動向-主要トピックス①

りそな銀行上海駐在員事務所

【1/4 ~ 1/7】

◎ 12月のPMI低下ながらも51.9

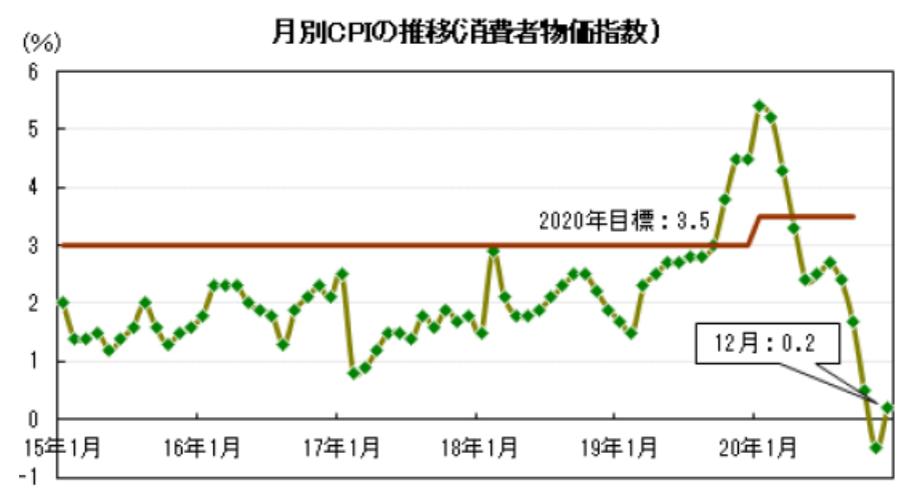
中国国家統計局と中国物流購買連合会の発表によると、20年12月の製造業購買担当者指数（PMI）は51.9と11月から0.2ポイント下落したものの、10カ月連続で景気判断の基準となる50を上回った。企業規模別では、大型企業が52.7、中型企業が52.7、小型企業が48.8で、小型企業は2カ月ぶりに基準の50を割り込んだ。また、構成指数のうち、生産は54.2、新規受注が53.6で、生産と需要の差が縮小傾向にある。一方、雇用指数は49.6にとどまり、依然として厳しい状況が続いている。



【1/8 ~ 1/14】

◎ 20年人民元貸出19.63兆元増加

中国人民銀行（中央銀行）の発表によると、全国の金融機関による2020年の人民元貸出増加額は19兆6,300億元（約315兆500億円）となり、前年を2兆8,200億元上回った。また、20年末時点の人民元と外貨の貸出残高は、前年同期比それぞれ12.8%増、10.2%増で、合計残高は12.5%増の178兆4,000億元となった。なお、国内実体経済の流動性の目安とされる社会融資総量の増加額は19年と比べ、9兆1,900億元の増加となった。



◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年2月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

【1/15 ~ 1/21】

◎ 21年も引き続きインフラ投資を推進

中国国家発展改革委員会（発改委）の発表によると、2021年の政府主導投資計画において、IT技術を中心とする「新型インフラ」と「新型都市化建設」に引き続き重心を置くことが明らかになった。新型インフラについては、5G、IoT及びビッグデータセンターの建設を進めることを強調している。新型都市化建設については、老朽化しつつある集合住宅の改造や低・中所得者向けの賃貸住宅の開発、洪水対策施設の建設に重点を置く。また、新型インフラ投資について、民間資本の参入を支持するとの意向を示している。

◎ モバイル決済利用率拡大

中国支払決済協会（決済サービスの業界団体）によると、2020年にはモバイル決済を利用している人のうち74%が毎日使っていることが分かった。同比率は前年から4.4ポイント拡大している。決済方法については、スマホQRコードの提示による決済が全体の95.2%を占める。決済内容については、文化・娯楽への消費や駐車料支払の伸びが著しかった。利用者の年齢層は、31~40才が33.9%で最も多かった。また、これに伴うセキュリティ問題としては、個人情報漏洩や二重QRコードによる詐欺に被害が集中している。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2020/2	2020/3	2020/4	2020/5	2020/6	2020/7	2020/8	2020/9	2020/10	2020/11	2020/12
実質GDP成長率	%	-	-6.8	-	-	3.2	-	-	4.9	-	-	6.5
消費者物価上昇率	%	5.2	4.3	3.3	2.4	2.5	2.7	2.4	1.7	0.5	-0.5	0.2
都市部調査失業率	%	6.2	5.9	6.0	5.9	5.7	5.7	5.6	5.4	5.3	5.2	5.2
輸出額	10億ドル	80.4	184.6	199.5	206.5	212.9	236.9	234.4	238.7	236.2	267.0	281.9
輸入額	10億ドル	142.5	164.8	154.6	143.9	166.6	175.0	175.9	202.0	178.2	191.5	203.8
経常収支	100万ドル	-	-33,696	-	-	76,472	-	-	168,706	-	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,106.7	3,060.6	3,091.5	3,101.7	3,112.3	3,154.4	3,164.6	3,142.6	3,128.0	3,178.5	3,216.5
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.00	7.02	7.07	7.11	7.08	7.01	6.93	6.81	6.70	6.60	6.54

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

リソナ マーケットフラッシュマンスリー (2021年2月号)

& アジア・新興国FXフラッシュ

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○上海の新型コロナ事情

先日、上海で市内中心部に位置する2か所の大型病院の外来診査部門が一時サービス停止となりました。理由は、同病院内に就職していた医療関係者2名が院内で行われたPCRスクリーニングで、新型コロナウイルス陽性である疑いがあったことでした。上記2名は同日午後14時感染者として確認され、友人1名を加え、合わせて新規感染者3名が確認されました。

両病院は職員全員（含む医療関係者以外の従業員）を対象としてPCR検査を実施し、新たに「陽性」と判明した感染者は出ていません。また、報道によると、確認された感染者3名の住宅周辺の団地や商業施設について逐一検査を行った結果、新たに感染者4名が確認され、何れも上記感染者の濃厚接触者であると分かりました。

市内では、最近やや緩めになった雰囲気再び緊張感が一気に高まっています。最初に確認された2名の感染者の住宅エリアも「中リスク」地域と指定され、同地域における一部の住民約2千名が14日間の集中隔離が区政府に要請される実態まで至っております。

ちなみに、今回はペットも飼い主と一緒に集中隔離ホテルに行くことができるので、飢えと寒さに苛まれなくてよいことに私は非常に感動しました。



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年2月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆タイ中央銀行が発表した2020年11月の主要経済指標（速報値）によれば、タイ経済はまだ規模ながら回復傾向となった。個人消費指数は前年同月比1.0%上昇。政府の景気刺激策等を背景にプラス成長に転じた。工業生産指数は同0.4%拡大した。民間投資指数は同1.4%上昇。機械・設備主導で改善した。公共支出は政府の運輸等のプロジェクトの実施が寄与した。観光部門は依然として低迷が続いている。

◆タイ商業省によると、2020年11月の輸出額は前年同月比3.7%減の189億3,266万米ドル。マイナス成長は7カ月連続だったが、減少幅は縮小した。食品類の一部、在宅勤務関連製品・電気製品・同部品等は引き続き伸びていることが背景にある。農産物・加工品の輸出は前年同月比2.4%減、工業製品は同2.9%減。自動車・同部品は9カ月ぶりに増加した。エアコン、家具、ゴム製品等の輸出も伸びた。市場別では、米国向けの輸出額が最大。

日本、韓国向けがプラス成長に転じた。中国、東南アジア諸国連合（ASEAN）、南アジア、欧州連合（EU）向けはいずれも減少した。輸入額は同1.0%減の188億8,007万米ドル。この結果、貿易収支は5,259万米ドルの黒字となった。今年1～11月の輸出額は前年同期比6.9%減の2,113億8,569万米ドルだった。一方、11月の対米ドル・パーツ相場は平均で1米ドル=30.46パーツで、前月の31.25パーツ比パーツ高となった。

◆タイ商業省が発表した12月の一般消費者物価指数（CPI）は、前年同月比0.27%下落した。前年同月を下回ったのは10カ月連続。食品・飲料は同1.38%上昇した。生鮮野菜が同12.88%と上昇。非食品は同1.24%下落。また、2020年通年のCPI平均値は前年比0.85%下落となった。2021年のCPI上昇率予測を0.7～1.7%の上昇としている。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2020/2	2020/3	2020/4	2020/5	2020/6	2020/7	2020/8	2020/9	2020/10	2020/11	2020/12
実質GDP成長率	%	-	-2.0	-	-	-12.1	-	-	-6.4	-	-	-
消費者物価上昇率	%	0.7	-0.5	-3.0	-3.4	-1.6	-1.0	-0.5	-0.7	-0.5	-0.4	-0.3
失業率	%	1.1	1.0	1.0	1.0	1.0	2.2	1.9	1.8	2.1	2.0	-
輸出額	100万ドル	20,756	22,330	18,949	16,285	16,464	18,819	20,212	19,621	19,377	18,933	-
輸入額	100万ドル	16,744	20,813	16,486	13,584	14,785	15,476	15,863	17,391	17,330	18,880	-
経常収支	100万ドル	5,178	623		861	182	1,599	3,545	1,427	1,000	-1,476	-
外貨準備高	10億ドル	229.5	226.5	235.7	237.3	241.6	250.4	254.5	251.1	248.5	253.5	258.1
主要政策金利	%	1.00	0.75	0.75	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50
対ドル為替レート	パーツ	31.3	32.1	32.6	32.0	31.2	31.4	31.2	31.4	31.3	30.5	30.1

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レポ金利

出所：Bloomberg

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



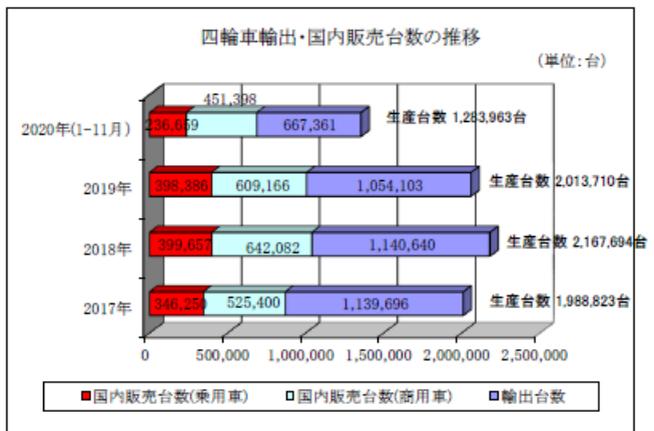
りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年2月号)

タイにおける自動車産業の動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

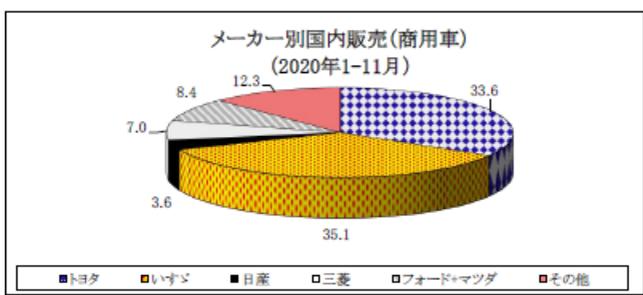
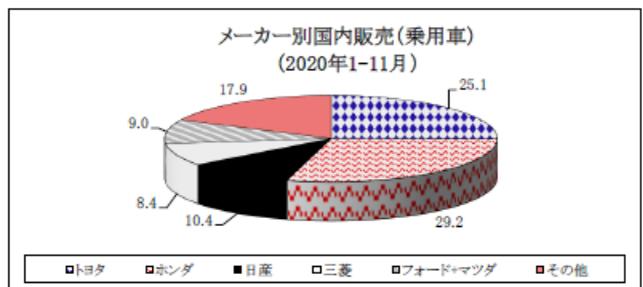
出所:タイ工業連盟(FTI)

		2017年	2018年	2019年	2020年 (1-11月)	前年同期比 (%)	11月		
【台数】	(台)								
		四輪	生産台数	826,787	884,609	804,340	488,300	64.9	66,296
			商用車	1,162,036	1,283,085	1,209,370	795,663	70.6	106,159
			合計	1,988,823	2,167,694	2,013,710	1,283,963	68.3	172,455
		国内販売台数	乗用車	346,250	399,657	398,386	236,659	65.5	25,437
			商用車	525,400	642,082	609,166	451,398	81.7	53,740
合計	871,650		1,041,739	1,007,552	688,057	75.3	79,177		
輸出台数	1,139,696	1,140,640	1,054,103	667,361	68.0	74,532			
二輪	生産台数	2,055,193	2,063,076	1,948,480	1,456,220	81.4	175,569		
	国内販売台数	1,810,771	1,788,323	1,718,587	1,392,252	86.8	120,062		
	輸出台数	849,081	886,275	948,839	648,723	76.2	67,261		
【完成車輸出金額】		(百万バーツ)							
四輪		603,038	594,810	545,968	371,695	73.1	42,675		
二輪		54,828	61,654	69,933	53,045	84.5	5,968		



出所:トヨタ自動車

【メーカー別国内販売台数】		2017年	シェア (%)	2018年	シェア (%)	2019年	シェア (%)	2020年 (1-11月)	前年同期比 (%)	シェア (%)	11月
トヨタ	乗用車	96,606	27.9	112,394	28.1	117,708	29.5	59,341	55.1	25.1	7,420
	商用車	143,531	27.3	202,719	31.6	214,672	35.2	151,778	77.7	33.6	20,859
	合計	240,137	27.5	315,113	30.2	332,380	33.0	211,119	69.7	30.7	28,279
いすゞ	乗用車	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0
	商用車	160,550	30.6	177,864	27.7	168,215	27.6	158,277	103.8	35.1	17,577
	合計	160,550	18.4	177,864	17.1	168,215	16.7	158,277	103.8	23.0	17,577
ホンダ	乗用車	95,078	27.5	95,793	24.0	96,154	24.1	69,041	77.3	29.2	7,376
	商用車	32,690	6.2	32,497	5.1	29,679	4.9	13,925	51.6	3.1	1,532
	合計	127,768	14.7	128,290	12.3	125,833	12.5	82,966	71.3	12.1	8,908
日産	乗用車	35,283	10.2	43,991	11.0	35,809	9.0	24,666	74.3	10.4	2,715
	商用車	24,426	4.6	28,403	4.4	28,605	4.7	16,231	61.5	3.6	1,121
	合計	59,709	6.9	72,394	6.9	64,414	6.4	40,897	68.7	5.9	3,836
三菱	乗用車	22,833	6.6	31,594	7.9	38,879	9.8	19,845	54.9	8.4	2,323
	商用車	46,904	8.9	52,966	8.2	49,365	8.1	31,541	70.5	7.0	3,727
	合計	69,737	8.0	84,560	8.1	88,244	8.8	51,386	63.5	7.5	6,050
その他	乗用車	96,450	27.8	115,885	29.0	109,836	27.6	63,766	64.2	26.9	5,603
	商用車	117,299	22.4	147,633	23.0	118,630	19.5	79,646	74.6	17.6	8,924
	合計	213,749	24.5	263,518	25.4	228,466	22.7	143,412	69.6	20.8	14,527
合計	乗用車	346,250	100.0	399,657	100.0	398,386	100.0	236,659	65.5	100.0	25,437
	商用車	525,400	100.0	642,082	100.0	609,166	100.0	451,398	81.7	100.0	53,740
	合計	871,650	100.0	1,041,739	100.0	1,007,552	100.0	688,057	75.3	100.0	79,177



◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。